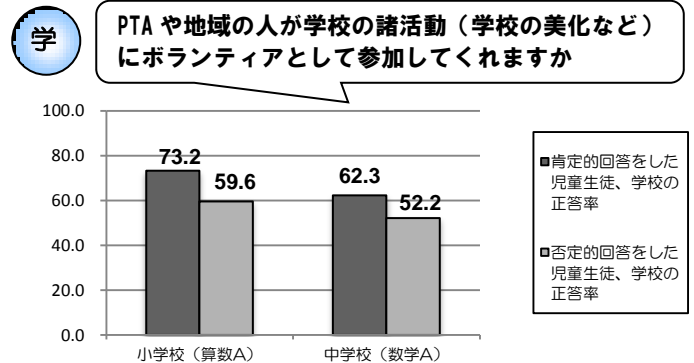
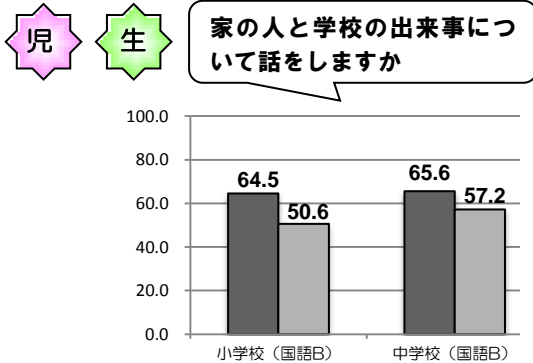


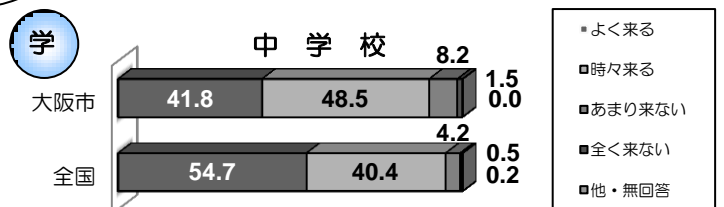
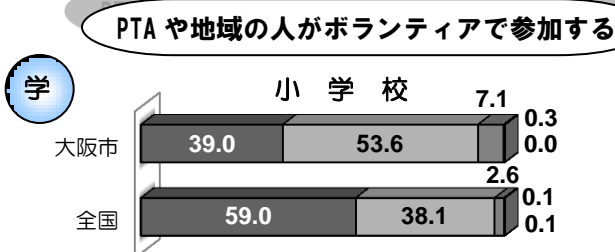
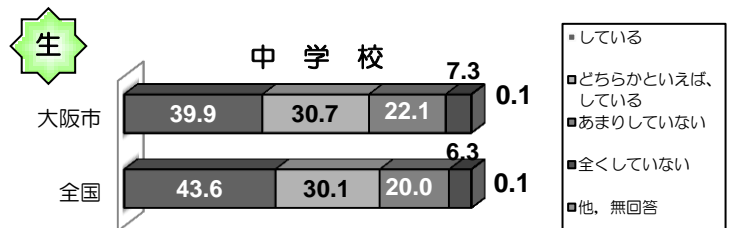
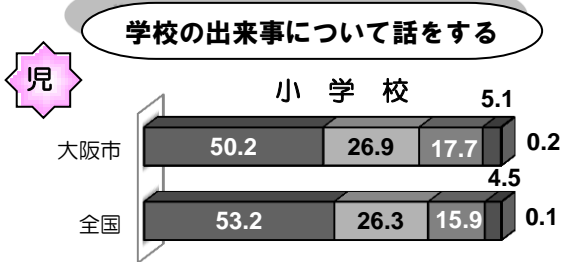
— 大阪市の結果から —

次の項目に肯定的に回答している児童生徒、学校の方が全ての教科で正答率が高い傾向にあります。



— 全国と比較して —

「学校の出来事について話をする」「PTAや地域の人がボランティアで参加する」について、肯定的に回答している児童生徒、学校の割合は、全国と比較して低い状況です。



学校で

- 学校教育活動の中で、地域との連携を図る取組を進めます。
☆ 昔遊び・昔のくらしの伝承、野菜・米作り、読み聞かせ、地域清掃、職場体験、福祉ボランティア、安全マップづくりなど
- 家庭での過ごし方について懇談会などで話題にし、保護者の方々と共に考えます。
- 地域での行事を紹介したり、一緒に参加したりします。
- 学力向上、体力向上、健全育成などを柱に、就学前教育、小中一貫した教育の充実に取り組みます。
- ニュースや地域の出来事なども話題にして、地域・社会に関する興味・関心を育てます。

家庭で

- 子どもの話に耳を傾けましょう。学校でのがんばりをほめましょう。
- 地域の行事に積極的に参加しましょう。(お祭り、清掃活動、もちつき大会など)
- 新聞やテレビでニュース番組を見ることで、世界の動きや情勢などを知り、グローバルな物の見方をしていくことが大切です。また、その中で考えたことを地域社会や学校という子どもにとって身近な場で、ボランティア活動などを通して実際に行動に移していくことも必要です。

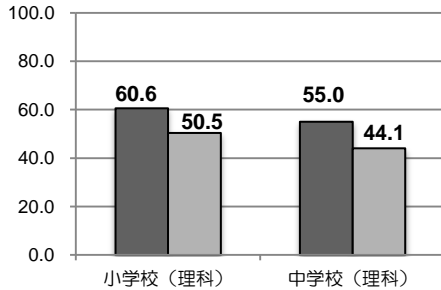


—大阪市の結果から—

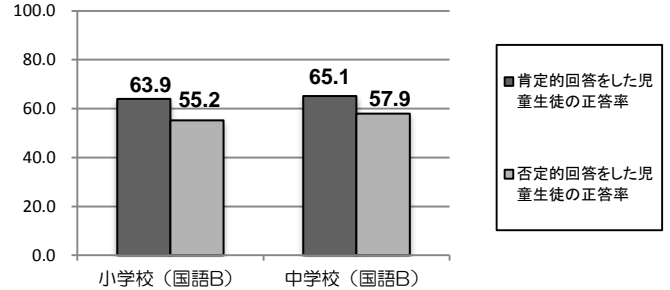
次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で正答率が高い傾向にあります。



地域や社会で起こっている出来事に関心がありますか



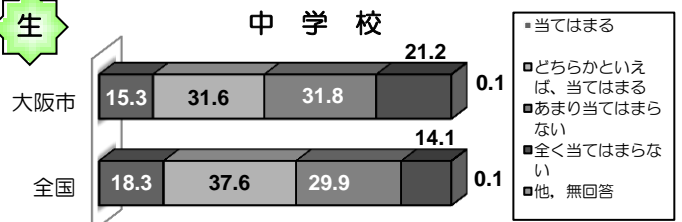
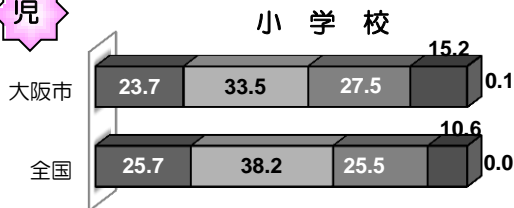
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか



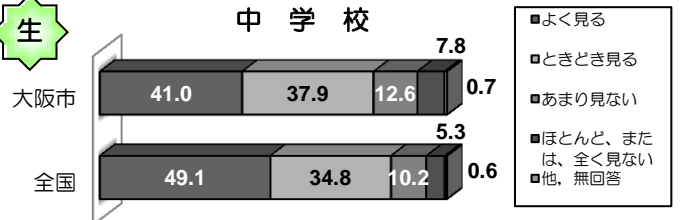
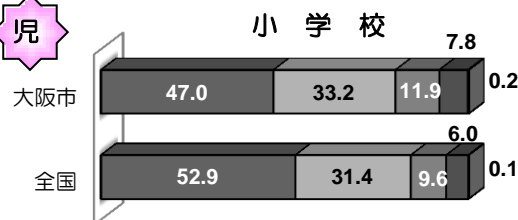
—全国と比較して—

「地域や社会に関心がある」「テレビ等のニュース番組を見る」について、肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国と比較して低い状況です。

地域や社会に関心がある



テレビ等のニュース番組を見る



効果があつた取組例

- ・ 学期が始まる前や長期休業前など、家庭で特に気を付けてほしいことを保護者メールでお知らせすることで、家庭との連携を図っています。
- ・ はぐくみ井戸端会議や地域見守り隊との話し合いを密にし、地域の方々から見た学校の課題などを取組に反映させるようにしています。
- ・ 新聞を授業の中で活用しています。また、新聞コーナーを設けて、好きな時間に生徒が記事を読めるように工夫しています。
- ・ 地域企業と連携したキャリア教育や、地域の歴史学習などを通して地域の人々の思いや願いに気づき、伝統を受け継ぐところを育てています。

大阪市の取組

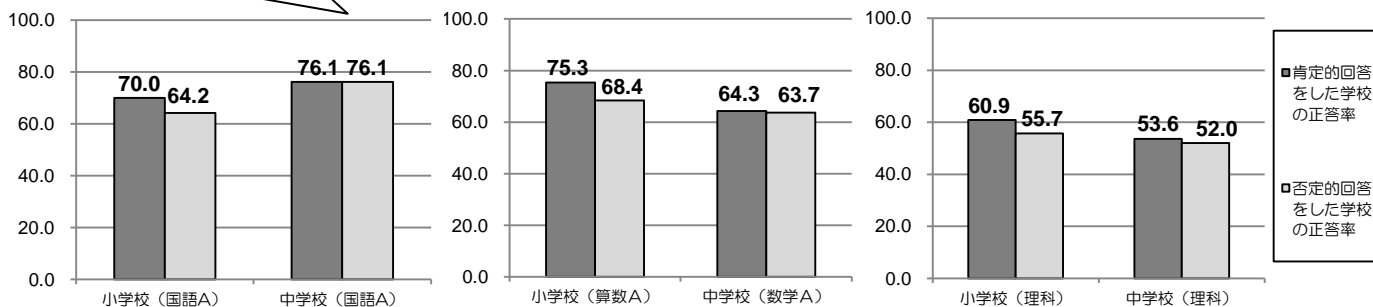
- 「学校図書館活性化事業・学校図書館活用推進事業」(P. 46)
- 「小中一貫した教育」(P. 49) 「幼保小の連携」(P. 50)
- 「学校元気アップ地域本部事業」(P. 51) 「学校キャラバン隊」(P. 52)

一 国の調査結果から〈新規項目〉

学

ノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導しましたか

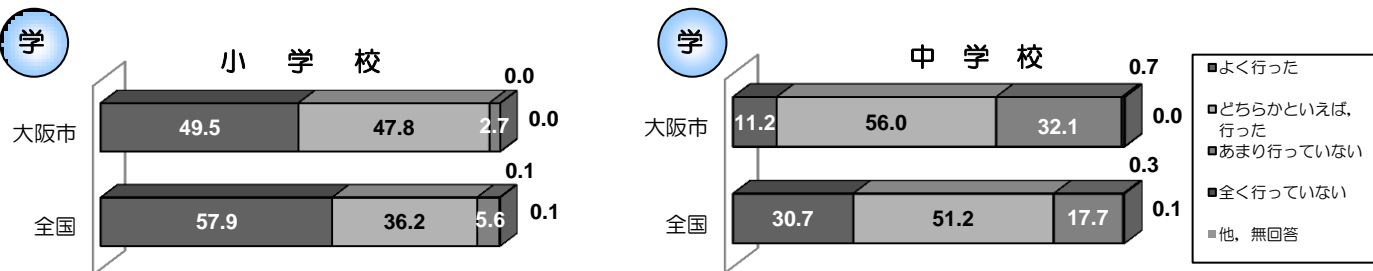
指導方法・学習規律について、27年度に新たに調査した「ノートに、学習の目標とまとめを書くように指導しましたか」について、肯定的に回答した学校の方が、正答率が高い傾向にあります。



一 全国と比較して

ノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導した

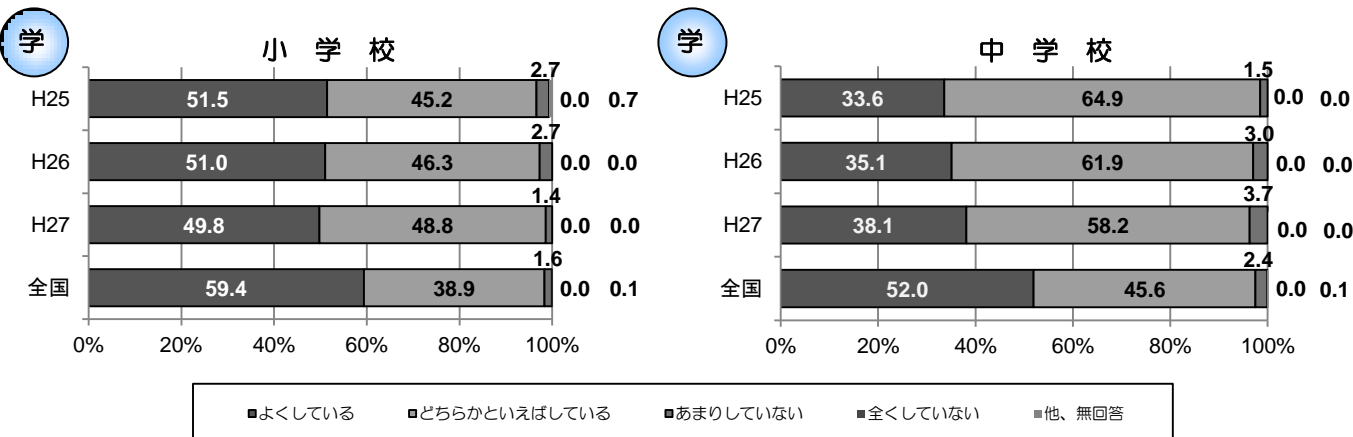
「ノートに学習の目標とまとめを書くように指導した」について、肯定的に回答した学校の割合は、全国と比較して小学校では高く、中学校では低い状況です。



一 大阪市の結果から

学力傾向や課題を全教職員で共有している

「学力傾向や課題を全教職員で共有している」について、中学校では、「よくしている」と回答した学校の割合がやや増加しています。

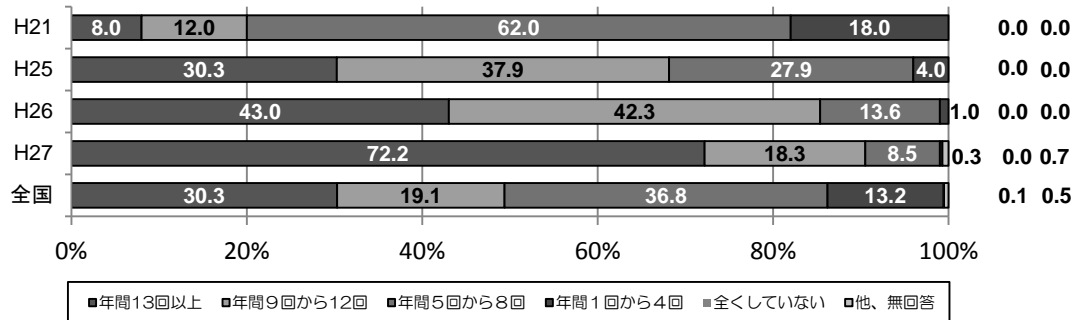


「授業研究を伴う校内研修の実施回数」は、26年度と比べ小中学校ともに大きく増加しており、全国平均を大きく上回っています。

授業研究を伴う校内研修の実施回数

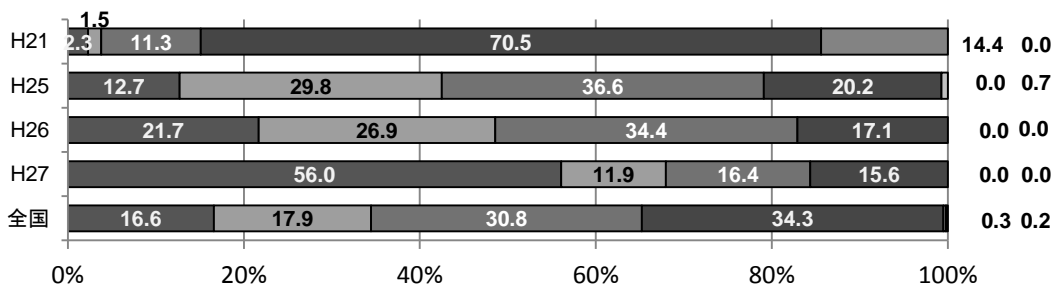
学

小学校



学

中学校



学校で

- 授業のはじめに目標（めあて・ねらい）を示し、おわりにはふり返し（まとめ）をしていきます。
- 年度当初に「今年度の取組」や「課題」について教職員で共有し、学力向上に向けた具体的な取組を進めていきます。

PDCAサイクルに基づく「学力向上検証改善サイクル」

「全国学力・学習状況調査」などの結果分析を基に、学校全体の学力の傾向や課題を分析し、学力向上に向けた計画を立て、成果と課題を検証することで取組の改善を図ります。



効果があった取組例

- SKIPポータルを活用し、職員朝会を週1回にすることで子どもたちとの教室での時間を充実したものにしています。
- 校内の研究部やメンターを中心に、学力向上・授業力向上に向けた校内研修を積極的に行っています。
※ メンター：より経験を積んだ教員
- 若手教員による自発的な授業研究が行われることで、授業改善への意識が学校に広がり、より校内研究が活性化しています。
- 全校で学習の始めにはめあてを、最後にはふりかえりをノートにまとめ、次の授業に活かしています。
- 大学教授等の外部講師を積極的に活用し、「全国学力・学習状況調査」の分析と授業改善についての研修会を行っています。

大阪市の取組

「学び続ける教員サポート事業」(P. 49)